

令和元年度  
「ごみゼロやまがた県民運動」の  
主な活動実績について

# 大型店舗等での街頭啓発

《名称》ごみゼロやまがた県民運動キャンペーン

《日程》5月30日（木）（5/30～6/5ごみ減量・リサイクル推進週間）

《場所》県内イオングループ4店舗の店頭

《内容》

山形県消費生活団体連絡協議会会員等とともに、家庭におけるごみの削減方法をまとめた「ごみゼロやまがた推進BOOK」等を来店者に配布し、家庭ごみの排出削減を呼びかけた。



《イオンスタイル天童における啓発》

# 令和元年度ごみゼロやまがた推進功労者表彰

《内 容》3Rの推進に努め功績のあった者(個人・企業・団体)について、関係団体や市町村から推薦を募集し、ごみゼロ推進功労者表彰審査会にて審査のうえ、下記3団体を表彰した。

《募集期間》6月19日～7月31日

《表彰式》10月27日(日)山形国際交流プラザ(令和元年やまがた環境展にて)

## ごみゼロやまがた推進功労者表彰受賞者

### ●山形中央ライオンズクラブ(山形市)

平成21年度に市民団体等と協力して、「ごみ減量すすむくん・かなえちゃんかるた」を作成し、山形市内の保育園や幼稚園、放課後児童クラブ等に配布するとともに、山形センチュリーライオンズクラブと合同でかるた大会を開催し、大人から子供まで広く市民に対しごみ減量やリサイクルの啓発に努めた。これら活動は、遊びを通じて幅広い年代がごみ減量に対する認識を深める機会となっており、ごみ減量及びリサイクル推進に大きく貢献した。

### ●山形センチュリーライオンズクラブ(山形市)

山形中央ライオンズクラブと合同で「ごみ減量すすむくん・かなえちゃんかるた大会」を開催し、大人から子供まで広く市民に対しごみ減量やリサイクルの啓発に努めた。これら活動は、遊びを通じて幅広い年代がごみ減量に対する認識を深める機会となっており、ごみ減量及びリサイクル推進に大きく貢献した。

### ●酒田ふれあい商工会女性部(酒田市)

平成20年度から、会員の事業所から排出されるカーテンの端切れを使ってエコバックを作成・販売するとともに、エコキャップの回収を実施し、毎年約2万個のキャップを地域の小中学校に寄贈しており、ごみ減量やリサイクルの推進に努めた。これらの活動は、廃棄物のリサイクルにつながっているほか、小中学生等がごみの分別に対する認識を深める機会となっており、ごみ減量及びリサイクル推進に大きく貢献した。



〈ごみゼロやまがた推進功労者表彰式(10月27日)〉

# 令和元年やまがた環境展における県民運動の推進

《日程》10月26日(土)、27日(日)

《場所》山形国際交流プラザ

《内容》

## ●3R推進トークショー

お天気キャスター 森田正光トークショー

## ●おもちゃの交換会「かえっこバザール」

子供同士が不要になったおもちゃを持ち寄って交換することで、リユースを推進



<3R推進トークショー>



<おもちゃの交換会「かえっこバザール」>

# 食品ロス削減シンポジウムの開催

《目的等》食品ロス削減の取組みを更に推進するため、県民、事業者、行政等がそれぞれの役割を果たし、食品ロス削減に関する具体的な取組紹介等を通じ、食品ロス削減に向けた機運の醸成を図ることを目的に、食品ロス削減シンポジウムを開催した。

《日 時》令和元年11月26日(火)

《場 所》山形県高度技術研究開発センター(山形市松栄)

《参加者》ごみゼロやまがた推進県民会議の各構成団体、もったいない山形協力店、行政機関(市町村、総合支庁等)、一般県民 計103名

《内 容》基調講演① 食品ロス削減に向けて(農林水産省)、②「SDGsレンズ」で覗き・つなぐ、食品ロスと世界の問題(東北芸術工科大学)  
事例発表((株)滝の湯ホテル、(株)ト一屋、ごみ減量・もったいないねット山形、やまがた福わたし)  
パネルディスカッション(講師、事例発表者)  
食品ロス削減宣言の採択(ごみゼロやまがた推進県民会議)

※ 宣言文は下記のとおり

## ごみゼロやまがた推進県民会議 食品ロス削減宣言

私たちは、SDGs(持続可能な開発目標)や食品ロスの削減の推進に関する法律に基づき、食品ロス削減の効果的な推進を図るため、県民、事業者、行政機関が連携・協力し、外食や家庭でのおいしい食べきりに努めるほか、食品を有効に活用するなどして食品ロス削減に積極的に取り組んでまいります。

- 一 宴会等においては、「おいしく残さず食べきろう！」をキャッチフレーズに、宴会5箇条や30・10(さんまる・いちまる)運動を実践して食べ残しが出ないように努めます。
- 一 家庭においては、「おいしく楽しく食べきろう！」をキャッチフレーズに、食材を丸ごと無駄なく使ったり、余った料理を別の料理に作り替えたりするなどして食品ロス削減に努めます。
- 一 買物の前には、冷蔵庫などにある食材を確認して必要な分だけを購入するとともに、食品の賞味期限や消費期限の意味を正しく理解し、食品ロス削減に努めます。
- 一 事業者は職場において、行政機関は県民に向けて、食品ロス削減に関する取組みが更に推進されるよう、普及啓発に努めます。

令和元年11月26日

ごみゼロやまがた推進県民会議

# 外食時の「おいしい食べきり」 全国共同キャンペーンの実施

1 期 間 令和元年12月～令和2年1月

2 共通キャッチフレーズ 「おいしく残さず食べきろう！」

3 実施内容

忘新年会の多い時期に、食品ロスを削減することを目的として、「おいしい食べ物を適量で残さず食べきる」ことを重点的に、県ホームページや新聞広告、市町村広報誌等による周知啓発、ごみゼロやまがた推進県民会議の構成団体やもったいない山形協力店等を通して食べきり運動の呼びかけ等の周知啓発を行った。

※ ポスター、チラシ、卓上POPを配布

# 「もったいない山形協力店」の募集・登録 による食品ロス削減

山形県内の飲食店、宿泊施設、小売店、スーパーを対象に、ごみの削減やリサイクルに取り組む店舗等を募集し、「もったいない山形協力店」として登録。県ホームページ等により消費者にその取組み等を周知した。

## ○「もったいない山形協力店」の登録数 309事業所(令和2年3月末現在)

	村山	最上	置賜	庄内	計
飲食店	74 (68)	3 (3)	10 (9)	12 (12)	99 (92)
宿泊施設	14 (4)	1	6 (2)	9 (4)	30 (10)
小売店・スーパー	106 (61)	8 (3)	27 (10)	39 (9)	180 (83)
計	194 (133)	12 (6)	43 (21)	60 (25)	309 (185)

※ ( ) は令和元年度新規登録事業所